

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育・学校心理学	ET		13815	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	学校心理士SV、臨床心理士、公立小教員			

授業の到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基本的な考え方を理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す

授業の概要

教育課程上の様々な場面に現れる課題、主に幼児期・児童期における乗り越えるべき課題を心理学的な切り口で捉える。子どもの健やかな成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性・特別支援教育等の現状と課題などを体系的に学ぶ。

授業計画

- 1 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
- 2 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
- 3 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバーグの理論と方法
- 4 幼児期から青年期において、社会性の発達
- 5 幼児期から青年期における現代の発達課題
- 6 認知発達、認知機構の変遷
- 7 主体的な学びの開発と体系化
- 8 主体的、対話的で深い学びの実践例
- 9 学習内容、発達に合った適切な学習形態
- 10 動機づけ、意欲を引き出す学習形態の在り方に関する事例研究
- 11 主体的な学習の成果を的確に捉えた評価
- 12 学習成果の可視化
- 13 主体的な学習、思考力を育む学習集団
- 14 発達障害の理解と支援
- 15 まとめと振り返り

授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

濱田誠二郎著『心理学を生かしたクラスづくり』 株式会社ERP

参考図書

授業中に紹介する

留意事項

マスコミでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育課程及び総合的な学習の時間の指導法（中高）			13854	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
都賀 純／堀 正人	選択	2	神戸市教育委員会指導課指導主事			

授業の到達目標

教育課程の意義や編成の方法を学び、カリキュラムマネジメントの重要性を理解する。また、教育課程における総合的な学習の時間の位置づけや意義を理解し、指導計画の作成の仕方を修得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とK（思いやり）の育成を目指す。

授業の概要

教育課程の果たす役割や機能、意義を理解し、公的な性格を有する学習指導要領を学ぶ。さらに、学習指導要領の歴史的な変遷や諸外国との教育制度の比較から、現在の教育課程の意図を考察する。そして、教育課程における「総合的な学習の時間」の模擬編成に取り組む。

授業計画

- 1 はじめに、教育課程とは
- 2 教育課程に関する法律
- 3 教育課程の歴史(学習指導要領の変遷)
- 4 総合的な学習の時間について
- 5 総合的な学習の時間の実践事例Ⅰ
- 6 総合的な学習の時間の実践事例Ⅱ
- 7 総合的な学習の時間とカリキュラムマネジメント
- 8 地域社会との連携と総合的な学習の時間のあり方
- 9 各学校種における教育課程(幼稚園、小学校)
- 10 各学校種間における教育課程(中学校、高等学校、特別支援学校)
- 11 教育課程の編成と評価
- 12 学校種間の連携・部活動と教育課程
- 13 今日の課題と教育課程
- 14 諸外国の教育課程(欧米・中・韓)
- 15 教育課程の模擬編成演習とプレゼンテーション、まとめ

授業の方法

毎回レジメを配布し、授業を行う。

準備学修

図書館等で、日本や諸外国の教育制度等の参考文献を調べておく

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

事前、事後に届け出る

テキスト

中学校学習指導要領解説（総則編）最新版
中学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編）最新版

参考図書

今、求められる力を高める総合的な学習の時間（小）文部科学省編
教育出版
今、求められる力を高める総合的な学習の時間（中）文部科学省編
教育出版
今、求められる力を高める総合的な学習の時間（高）文部科学省編
教育出版

留意事項

配布したレジメや資料をファイルしておくこと

教員連絡先

mhorik@kaisei.ac.jp
toga@kaisei.ac.jp

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育相談(カウンセリングを含む)	教職中等	13852	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
濱田 誠二郎	選択	2	学校心理士SV、臨床心理士、公立小教員		

授業の到達目標

中高の児童・生徒が自己理解を深め、さらに他者受容へとつなぐ受講生に子どもの心理的特徴や課題を引き出し支援する基礎的な知識と技術を身につけるようになることをめざす。このクラスではKAISEIパーソナリティーのK（思いやり）、I（知性）、S（奉仕）をめざす。

授業の概要

日本には数多くのカウンセラーの資格があるが、来談者が望んでいることは、心の叫びやつぶやきをきちんと受け止めてくれることであろう。対人専門職をめざす者は、現在の主たるカウンセリング理論を概観した上で、自分に合ったスタイルの技法を学び続けてほしい。授業では、事例を多く採り入れて、実践に生かせるよう学習する。

授業計画

- 1 学校での教育相談を学ぶにあたってその意義を理解する。
- 2 学校独自の課題の把握の必要性を学ぶ。
- 3 傾聴、共感など学校におけるカウンセリングマインドキーワードについて知る。
- 4 カウンセリングマインド等教育相談に必要な基本を体験する。
- 5 学校でのいじめで、児童・生徒のシグナルや早期発見方法を理解する。
- 6 個々の問題行動の本質理解に必要なカウンセリングマインドを生かしたコミュニケーションを体験する。
- 7 カウンセリングを通じて自己理解、他者受容する技術について知る。
- 8 気持ちの良いクラスづくりに欠かせない相互受容の大切さを理解する。
- 9 学級内を明るく気持ちの良い雰囲気にするための心理教育を体験する。
- 10 非行・問題行動の善後策としての保護者への対応の仕方を理解する。
- 11 学級崩壊が生じたときの教育相談としての役割を理解してその教育技術について学ぶ。
- 12 学校で虐待を発見する手立て、確認した後の動きや支援の在り方を学ぶ。
- 13 児童・生徒の発達課題を学び、保護者相談に生かせるように事例から学ぶ。
- 14 不登校などの問題を 人が抱え込むことがないように校内体制

の整備計画について学ぶ。

- 15 学校だけでは支援しきれない事案に備えて地域の医療、福祉等専門職との連携の必要性を理解する。

講義後に試験を実施

授業の方法

講義を主とするが、双方向の討議もとり入れて受講者が主体的に参加できる授業形式もとり入れる。

準備学修

子どもに関する社会問題等、自分の生活経験から判断するだけでなく、複数の視点で考える習慣を身につける。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

必要な場合授業時に指示する

参考図書

授業時に紹介する

留意事項

本授業は、教育現場では誰もが直面する課題を数多く取り上げるので、授業後に自分の考えを持つことが大切である。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
道徳教育指導論	教職中等	13829	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
松井 敦	選択	2	中学校教諭 中学校教頭 小学校校長		

授業の到達目標

道徳教育の基本的な概念を学習し、道徳的な実践力を養う。さらに学校での道徳教育の指導法を考察し、道徳教育指導案の作成と授業を経験する。このクラスではKAISEIパーソナリティーI（知性）を養う。

授業の概要

道徳の意義や原理を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。また、多様な道徳教育の指導法を学修し、実際の教科書を使用して模擬授業を行う。さらに、今後の道徳教育の在り方について考察し、実際の取り組みについて学ぶ。

授業計画

- 1 はじめに・道徳教育の基礎理論
- 2 道徳教育の歴史(江戸～明治～戦前)
- 3 道徳教育の歴史(戦後～現代)
なぜ「特別の教科」なのか
- 4 「特別の教科」道徳の目標について
- 5 道徳教育と教育課程の関連について
- 6 生徒の心理と道徳教育の関わり
- 7 学校における道徳教育指導体制
- 8 道徳教育の指導計画について
- 9 道徳教育指導法(内容項目の詳細)
- 10 道徳教育指導法(指導案の書き方)
- 11 道徳教育指導法(ロールプレイ)
- 12 保育所・幼稚園・小学校における道徳教育
- 13 中学校・高等学校における道徳教育
- 14 諸外国の道徳教育事情
- 15 道徳教育の今日的な課題、まとめ

授業の方法

レジュメや資料を中心に授業を進める。発表、模擬授業、ロールプレイも取り入れる。

準備学修

過去に学校で学習した道徳の時間や道徳的な行事を思い返しておく

こと。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえず欠席する時は事前事後に届けること

テキスト

文部科学省編「中学校学習指導要領解説（特別の教科道徳編）」最新版

参考図書

神戸市立中学校の道徳の教科書「中学道徳 あすを生きる」1・2・3・年用（日本文教出版）

留意事項

授業中に配布した資料をもとに、毎回レポートを作成します

教員連絡先

matsui@kaisei.ac.jp

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	a		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	必修	2				

授業の到達目標

家族やその生活の研究に必要な基礎知識を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

家族への科学的接近は、様々な専門分野から可能である。この演習では、女性の晩婚化、少子化、仕事と家族的責任（育児や介護等）の調和、親子関係、きょうだい関係、離婚、再婚など、家族をめぐる様々なテーマに、学際的に接近したい。まず演習 I では、家族社会学を中心とした家族研究の基礎知識を身に付ける。歴史学、人口学、心理学、人類学、法学などの隣接科学における家族研究の蓄積にも学ぶ。

授業計画

- 1 家族とは
- 2 家族研究の方法 1
- 3 家族研究の方法 2
- 4 研究テーマの設定
- 5 文献・資料の収集と整理
- 6 家族の研究論文を読む 1
- 7 家族の研究論文を読む 2
- 8 家族の研究論文を読む 3
- 9 家族の研究論文を読む 4
- 10 個人研究の発表 1
- 11 個人研究の発表 2
- 12 個人研究の発表 3
- 13 個人研究の発表 4
- 14 現代の家族問題
- 15 まとめ

授業の方法

プレゼンテーションやディスカッションを多くとり入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

なし。

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

「現代家族関係論」を履修しておくことが望ましい。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	b		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2	学校心理士SV、臨床心理士、公立小教員			

授業の到達目標

人は互いに影響しあって暮らしている。そこで、対人関係（家族、仲間、教師、保護者、組織）における自他の行動を、科学的に考え分析する。さらに、心理的援助者として必要な自己理解、カウンセリング技法、SST、ストレスマネジメント、アンガーマネジメント等、子ども（人）を理解、支援するために役立つであろう技法の基本を習得する。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）を養う。

授業の概要

益々価値観が複雑、多様化する現代社会において、保育・幼稚園・学校で課題となっている実際のケースを取り上げて、学校・園現場を含め、社会に出た時に即戦力となるテーマを見つけられるように支援する。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 ケーススタディーその1 子ども
- 3 ケーススタディーその2 子ども
- 4 ケーススタディーその3 保護者等
- 5 ケーススタディーその4 保護者等
- 6 共有するテーマの絞り込みその1
- 7 共有するテーマの絞り込みその2
- 8 各自が研究の方向性について報告・意見交換その1
- 9 各自が研究の方向性について報告・意見交換その2
- 10 kj法によるテーマ分類1 小表札討議
- 11 kj法によるテーマ分類2 中表札討議
- 12 グループ発表準備1
- 13 グループ発表準備2
- 14 発表会
- 15 総括

授業の方法

講義中心ではなく、学生同士が双方向の討議することもとり入れて、主体的に参加できるようにする。自分の意見を話し、相手の考えを聞くことから、自己受容、他者理解を深め、コミュニケーション能力を培う。

準備学修

日常生活で見聞きしたことに、自分なりの考えを持つ習慣を意識すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

必要に応じて紹介する

参考図書

必要に応じて紹介する

留意事項

自分の考えを整理する目的で、レポートの提出を求められることがある。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	b	17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
濱田 誠二郎	必修	2	公立学校教員、学校心理士SV、臨床心理士		

授業の到達目標

科学的かつ客観的な視点で事象を判断できる能力を培う。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）を養う。

授業の概要

共同研究として、一つのテーマを多様な視点で見つめ、検証する。その中で、クリティカルシンキングの基本を習得することで、次年度の卒業研究において、客観的な根拠を示して他者に説明できるような能力を養う。

授業計画

- 1 演習Ⅱにおけるオリエンテーション
- 2 各自の興味関心を聞き合う。
- 3 各自の興味関心の集団討議
- 4 各自のテーマを分類し、共同研究テーマを設定する。
- 5 研究計画・文献・資料に関する指導1
- 6 研究計画・文献・資料に関する指導2
- 7 研究計画・文献・資料に関する指導3
- 8 研究テーマの検討と討議1
- 9 研究テーマの検討と討議2
- 10 研究テーマの検討と討議3
- 11 各自の研究進捗報告会1
- 12 各自の研究進捗報告会2
- 13 各自の研究進捗報告会3
- 14 卒業研究に向けての質問会
- 15 まとめ

授業の方法

グループ討議により自分のテーマを複数の視点から見つめなおしながら進める。

準備学修

先行研究のリサーチを行ったうえで研究テーマを絞り込む。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

必要に応じて紹介する。

参考図書

必要に応じて紹介する。

留意事項

ボランティア活動等でネットワークを広げ、さまざまな分野で生の声を調査できるようになることを期待する。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	c	17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
森 晴美	必修	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士		

授業の到達目標

演習Ⅰを通して、ドキュメンテーション作成の基本技術を習得する。また、各自の研究したい内容や方向性に基づいて、関連する文献や資料を収集し研究テーマを設定する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

各自が研究したい内容について、文献や資料を検索したり実習の記録をもとに調査を進めたりする。さらに、発表・討議を通して研究テーマを設定し、具体的な研究計画を立て、演習Ⅲへの見通しをもつ。

授業計画

- 1 演習Ⅱの進め方について
- 2 質問紙法について
- 3 非構造的面接法について
- 4 概念抽出までの手続き
- 5 研究活動における倫理
- 6 実地研修①
- 7 実地研修②
- 8 実地研修のまとめ③
- 9 ドキュメンテーションを使ったプレゼンテーション
- 10 研究マップ発表
- 11 仮研究テーマでのミニ論文発表①
- 12 仮研究テーマでのミニ論文発表②
- 13 仮研究テーマでのミニ論文発表③
- 14 研究計画、研究方法の検討
- 15 まとめを行ってから試験をする

授業の方法

伝えやすく、分かりやすい資料作成をもとに、毎回発表し合う。ディスカッションにより、根拠や理由、原因や課題などを見出すようにし、互いの発表内容を高めていくようにする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

①作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。

②平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点の減点、遅刻1回につき2点の減点とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

『保育学研究倫理ガイドブック』（株/フレーベル館）『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

留意事項

提出物は設定された期限までに提出すること。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	a		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	必修	2				

授業の到達目標

卒業研究計画書を作成する。卒業研究全体の3分の1を完成させる。研究する視点や態度、論理的に考え書く力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

自分の研究テーマに基づいて研究を進める。調査、プレゼンテーション、ディスカッション、レポート作成などを通して、研究を深める。

授業計画

- 1 卒業研究テーマの確認
- 2 卒業研究の方法等の確認
- 3 卒業研究の執筆手順
- 4 卒業研究中間報告 1
- 5 卒業研究中間報告 2
- 6 卒業研究中間報告 3
- 7 卒業研究中間報告 4
- 8 卒業研究中間報告 5
- 9 卒業研究中間報告 6
- 10 卒業研究中間報告 7
- 11 卒業研究中間報告 8
- 12 卒業研究中間報告 9
- 13 卒業研究中間報告 10
- 14 今後の研究の進め方
- 15 まとめ

授業の方法

プレゼンテーションやディスカッションを多くとり入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

なし。

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	b		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2	公立学校教員 学校心理士SV 臨床心理士			

授業の到達目標

演習Ⅱで見出した研究テーマと研究計画に基づき、具体的な調査を通して、研究テーマに迫るための必要なデータの収集と分析を行い考察を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、E（倫理）を養う。

授業の概要

研究計画に沿って、先行文献調査と実地調査の両方を実施する。また、現場での適切な調査方法や分析方法について解説し、各自の調査を指導・支援する。調査結果についての発表や討議を踏まえ、今後の研究の見直しをもつようにする。

授業計画

- 1 演習Ⅲの進め方について
- 2 卒業研究・論文のまとめ方について
- 3 研究対象と調査期間について
- 4 研究方法と分析方法について
- 5 調査の進捗報告と討議〈外1〉
- 6 調査の進捗報告と討議〈外2〉
- 7 各自の先行文献調査のまとめ〈外1〉
- 8 各自の先行文献調査のまとめ〈外2〉
- 9 「問題と目的」の発表・討議〈外1〉
- 10 「問題と目的」の発表・討議〈外2〉
- 11 「研究方法」の発表・討議〈外1〉
- 12 「研究方法」の発表・討議〈外2〉
- 13 仮説と今後の見直しについて発表・調整〈外1〉
- 14 仮説と今後の見直しについて発表・調整〈外2〉
- 15 まとめを行ってから試験をする

授業の方法

各自の報告内容が授業の根幹となる。全体討議では積極的に自己の発表や他者への発言を行い学び合う姿勢を重視する。互いに研究推進へのよい刺激を受け、研究意欲と研究内容を高め合うようにする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

①作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。②平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とする。

テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

各自で研究推進への確かな目標をもち、質的・量的調査について計画的に進めること。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	b		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2	学校心理士SV、臨床心理士、公立小教員			

授業の到達目標

演習Ⅲに引き続き、具体的な調査結果に基づき考察を繰り返し、卒業研究としてまとめる。様々な視点から研究を見直すことや見解の違いを受け入れ、改善に向けて努力するなど自己の研究内容を高めるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）A（自律）I（知性）E（倫理）を養う。

授業の概要

各自の調査における分析結果を発表・討議する。他者の考え方や見方、分析結果の読み取り方に触れることで、客観性をもたせ、各考察をより深めるようにする。

授業計画

- 1 分析結果報告・仮説の検証①
- 2 分析結果報告・仮説の検証②
- 3 分析結果と考察①
- 4 分析結果と考察②
- 5 分析結果と考察③
- 6 分析結果と考察④
- 7 分析結果と考察⑤
- 8 研究のまとめと総合考察①
- 9 研究のまとめと総合考察②
- 10 今後の課題について
- 11 分析結果 覧表の作成
- 12 卒業研究の校正①
- 13 卒業研究の校正②
- 14 最終報告とまとめ①
- 15 まとめ②を行ってから試験をする。

授業の方法

各自の調査結果報告とその読み取りに関して、個人やグループでの発表・討議を通して考察を深める。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%。作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点する。

テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

口頭試問まで主体的に取り組み、研究に対する意識と責任感を持ち続けるようにすること。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	c		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	必修	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標

演習Ⅲに引き続き、具体的な調査結果に基づき考察を繰り返し、卒業研究としてまとめる。様々な視点から研究を見直すことや見解の違いを受け入れ、改善に向けて努力する等して、自己の研究内容を高めるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）A（自律）I（知性）E（倫理）を養う。

授業の概要

各自の調査における分析結果を発表・討議する。他者の考え方や見方、分析結果の読み取り方に触れることで、客観性をもたせ、各考察をより深めるようにする。

授業計画

- 1 分析結果報告・仮説の検証①
- 2 分析結果報告・仮説の検証②
- 3 分析結果と考察①
- 4 分析結果と考察②
- 5 分析結果と考察③
- 6 分析結果と考察④
- 7 分析結果と考察⑤
- 8 研究のまとめと総合考察①
- 9 研究のまとめと総合考察②
- 10 今後の課題について
- 11 分析結果 覧表の作成
- 12 卒業研究の校正①
- 13 卒業研究の校正②
- 14 最終報告と討議
- 15 まとめを行ってから試験をする。

授業の方法

各自の調査結果報告とその読み取りに関して、個人やグループでの発表・討議を通して考察を深める。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%。作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点する。

テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

口頭試問まで主体的に取り組み、研究に対する意欲と責任感を持ち続けるようにすること。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門基礎科目〈専門基礎科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
発達心理学			17201	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2	学校心理士SV、臨床心理士、公立小教員、上級教育カウンセラー			

授業の到達目標

人間の心身の発達と行動を、完成されたものとして丹念に記述するだけでなく、それが現状に至る経緯を跡付けるとともに、現在も変化あるものとして捉え、その形成を実践の中で支援することができる視点を育成する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、E（倫理）を養う。

授業の概要

人間の心身は、他者を含む環境との相互的関わりを通して発達していくことを、代表的な発達・学習理論を通じて紹介していく。また、精神活動の成立と展開にとっての初期経験の重要性、生涯発達という視点の大切さに触れながら、特に乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達等についての具体的な保育・教育実践の課題を考察する

授業計画

- 1 精神機能を発生的に把握するという事 生物としての発生
- 2 精神機能を発生的に把握するという事 遺伝と環境
- 3 発達段階論とPiagetの発達理論の成立
- 4 知的精神機能の発達:感覚運動期1(新生児期)
- 5 知的精神機能の発達:感覚運動期2(乳幼児期)・運動の発達
- 6 知的精神機能の発達:前操作期1(幼児期)・言語の発達
- 7 知的精神機能の発達:前操作期2(幼児期)・認知の発達
- 8 知的精神機能の発達:具体的操作期(学童期)・動機づけ・集団づくり
- 9 知的精神機能の発達:形式的操作期(学童期・青年期以降)学習活動の在り方
- 10 初期経験と発達:野生児の例から
- 11 対人関係と発達:愛着、社会性、遊びの発達
- 12 対人関係の発達:コミュニケーション能力の発達
- 13 発達研究における生態学的視点
- 14 発達における障害の位置づけと診断・療育
- 15 人格としての生涯発達およびまとめ

授業の方法

講義と単元内容に相応した発達に関連する課題に毎時間回答しながら学習を進める。

ら学習を進める。

準備学修

講義は各回が前回を前提として進められるので、毎回の講義内容をよく復習して授業に臨むようにしてください。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内規則に準ずる

テキスト

必要な場合授業時に指示する

参考図書

佐藤眞子編 『人間関係の発達心理学 2 乳幼児期の人間関係』 培風館
川島 夫、渡辺弥生編著 『図で理解する発達—新しい発達心理学への招待—』 福村出版 2010

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門基礎科目〈専門基礎科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容総論			17205	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	必修	2	公立幼稚園教員			

授業の到達目標

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示されている内容について十分に理解するとともに、教育・保育の歴史の変遷や現在の取り巻く状況を理解する。また、基礎的・総合的に乳幼児期の教育・保育及び保育者の役割などについて理解する。この科目ではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読み解きながら、保育内容・子ども理解・教師の役割・保護者との連携などについて、段階を追って学修を進める。情報機器及び教材の活用を図りながら、具体的場面を想定した指導実践力の基礎作りをしていく。

授業計画

- 1 保育の基本(1)幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園等について
- 2 保育の基本(2)「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の重要性について
- 3 保育内容の歴史の変遷
- 4 子どもの発達の特性
- 5 環境を通して行う教育、遊びを通しての総合的な指導(情報機器及び教材の活用を含む)
- 6 養護と教育、乳児保育、長時間保育
- 7 保育内容 5 領域、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
- 8 遊んでみよう(1)歌って手遊び(教材収集)
- 9 遊んでみよう(2)歌って手遊び(教材研究)
- 10 遊んでみよう(3)歌って手遊び(グループ発表)
- 11 保育の展開(1)発達や学びの連続性、小学校教育との円滑な接続
- 12 保育の展開(2)保護者との連携、家庭生活との連続性
- 13 保育の展開(3)子育ての支援、多文化共生の保育
- 14 保育の展開(4)特別な支援を必要とする子どもの保育
- 15 乳幼児期の保育・教育を取り巻く現状と課題、定期試験

授業の方法

講義を中心とするが、情報機器や教材を活用するとともに、ワーク

やグループディスカッションなどを多く取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①授業内で小テスト等を5回程度実施し、フィードバックを行う。
- ②ワークシート25% 授業に臨む姿勢25% 定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点

テキスト

「幼稚園教育要領解説」(文部科学省)「保育所保育指針解説」(厚生労働省)「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(内閣府・文部科学省・厚生労働省)「あそびうた大全集200」(永岡書店)「実践!造形あそび」(ナツメ社)

参考図書

幼稚園教育指導資料 第5集「指導と評価に生かす記録」(チャイルド社)
「ようちえんあしたもいきたいな」(全国公立幼稚園長会)

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育・学校心理学	PC	17411	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
濱田 誠二郎	選択	2	学校心理士SV、臨床心理士、公立小教員		

授業の到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基本的な考え方を理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

教育課程上の様々な場面に現れる課題、主に幼児期・児童期における乗り越えるべき課題を心理学的な切り口で捉える。子どもの健やかな成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性・特別支援教育等の現状と課題などを体系的に学ぶ。

授業計画

- 1 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
- 2 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
- 3 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバーグの理論と方法
- 4 幼児期から青年期において、社会性の発達
- 5 幼児期から青年期における現代の発達課題
- 6 認知発達、認知機構の変遷
- 7 主体的な学びの開発と体系化
- 8 主体的、対話的で深い学びの実践例
- 9 学習内容、発達に応じた適切な学習形態
- 10 動機づけ、意欲を引き出す学習形態の在り方に関する事例研究
- 11 主体的な学習の成果を的確に捉えた評価
- 12 学習成果の可視化
- 13 主体的な学習、思考力を育む学習集団
- 14 発達障害の理解と支援
- 15 まとめと振り返り

授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

濱田誠二郎著『心理学を生かしたクラスづくり』 株式会社ERP

参考図書

授業中に紹介する

留意事項

マスコミでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの理解と援助		17412	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
浅田 裕子	選択	1			

授業の到達目標

保育実践において、子ども 人 人の発達や学びを把握することの意義について理解する。子どもが、生活や遊びの中で、何を体験し学んでいくのか、子どもを理解するための基本的な考え方を学ぶ。合わせて子どもの心身の発達や保育実践について学ぶと共に保育における発達援助の基本について理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

子どもの発達と学びをとらえ、子どもを理解する際に必要となる様々な視点や方法について、具体的な事例や演習を通して学び、考察する。また特別な配慮を要する子どもへの援助や保幼小の接続、保護者支援など、子どもをめぐる課題についても理解を深めるようにする。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 子どもの発達と保育実践① 子ども理解における発達の把握
- 3 子どもの発達と保育実践② 保育者のかかわりと子どもの発達
- 4 生活や遊びを通じた学びの過程① 子どもの生活と学び
- 5 生活や遊びを通じた学びの過程② 子供の遊びと学び
- 6 保育における発達援助① 基本的生活習慣の獲得と発達援助
- 7 保育における発達援助② 特別な配慮を要する子どもへの理解と援助
- 8 まとめ 現代社会における子どもの発達と保育の課題

授業の方法

事例を多く取り入れ講義を進める。またグループ討議や意見発表を行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50% 定期試験50%

欠席について

欠席数は成績評価に反映する。

テキスト

必要に応じて、資料を配布する。

参考図書

保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、幼稚園教育要領解説（フレーベル館）
子ども理解と保育実践（萌文書林）

教員連絡先

asada@kaisei.ac.jp

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽4	①/②	17477	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
南 夏世	選択	2			

授業の到達目標

豊かな感性と表現を育てることができる指導者を目指すために、領域「表現」についてのねらい・内容を理解し、子どもの発達や現代の環境等を踏まえた幅広い表現活動が展開できるような教材を研究し、実践する方法を修得する。
この授業ではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）とS（奉仕）を身につける。

授業の概要

領域「表現」の目標・内容を学び、子どもの成長に合わせた活動内容や指導法を修得する。まず合奏の演習を通して、手拍子・リズム奏・リズム遊び等からリズムについての理解を深め、合わせて楽譜の書き方を学習し、楽典の基礎を固める。そして、日々の活動に必要な弾き歌いの演習を通して、実習に向けて模擬授業の実践を行う。さらに、実習や表現活動に必要なピアノ演習やグループのテーマによる活動の練習から、総括として現場で実践するための指導力を身につけていく。

授業計画

- 1 領域「表現」の概説。子どもの成長と音楽の関わりについて。
- 2 わらべうたと子どもの歌など歌唱教材研究と演習。
- 3 季節の歌など歌唱教材研究と演習。
- 4 季節の歌など歌唱教材研究と演習。
- 5 打楽器の奏法とリズム合奏。
- 6 合奏演奏と編曲法。
- 7 合奏演奏と編曲法。楽譜の書き方。
- 8 合奏演奏と編曲法。楽譜の書き方。
- 9 表現活動のためのピアノ個人レッスン。楽典。
- 10 歌唱指導の実践。
- 11 歌唱指導の実践。
- 12 表現活動のためのピアノ個人レッスン。楽典。
- 13 さまざまな表現活動とそのまとめ。
- 14 グループが定めたテーマによる表現活動の総合演習。
- 15 グループが定めたテーマによる表現活動の総合演習。

授業の方法

実技が中心である。個人であるいはグループで発表や実演を行う。

準備学修

Webを参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①項目ごとにテスト、発表を実施し、フィールドバックを行う。
- ②平常点70%、定期試験30% レポート提出も求める。

欠席について

授業毎の発表や演習が評価対象になるので、できるだけ欠席しないこと。

テキスト

『弾こう♪歌おう♪子どもとともに』（YAMAHA MUSIC MEDIA）
『リズム曲集』（サーベル社）

参考図書

授業時に指示する。

留意事項

初回に配る個人カードに毎回の学習や演習を必ず記録し、定期試験の際に提出すること。
音楽に合わせた身体表現発表が適宜あるので、動きやすい服装で受講すること。

教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育相談(カウンセリングを含む)	教職小	17497	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
濱田 誠二郎	選択	2	学校心理士SV、臨床心理士		

授業の到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基本的な考え方を理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

教育課程上の様々な場面に現れる課題、主に幼児期・児童期における乗り越えるべき課題を心理学的な切り口で捉える。子どもの健やかな成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性・特別支援教育等の現状と課題などを体系的に学ぶ。

授業計画

- 1 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
- 2 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
- 3 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバーグの理論と方法
- 4 幼児期から青年期において、社会性の発達
- 5 幼児期から青年期における現代の発達課題
- 6 認知発達、認知機構の変遷
- 7 主体的な学びの開発と体系化
- 8 主体的、対話的で深い学びの実践例
- 9 学習内容、発達に応じた適切な学習形態
- 10 動機づけ、意欲を引き出す学習形態の在り方に関する事例研究
- 11 主体的な学習の成果を的確に捉えた評価
- 12 学習成果の可視化
- 13 主体的な学習、思考力を育む学習集団
- 14 発達障害の理解と支援
- 15 まとめと振り返り

授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

濱田誠二郎著『心理学を生かしたクラスづくり』 株式会社ERP

参考図書

授業中に紹介する

留意事項

マスコミでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目 < こども関連科目 >	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情緒・学習障害の心理			17537	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	学校心理士SV、臨床心理士、公立小教員			

授業の到達目標

社会の縮図と言われる学校・園で、子どもたちが生きづらさを感じる様々な要因について指導者の理解を深める。絡み合った要因を学校・園、家庭、関係諸機関とどのように連携してきたか、また、さらに将来的な支援のベクトルについて自分の考えを持つ。このクラスはKAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の観点から、インクルーシブ教育を理解し、実践する意欲を養う。

授業の概要

情緒・自閉症特別支援学級の教育課程上の課題を知り、試みられてきた問題解決策を検証する。学校・園に在籍する発達に課題がある子どもへの対応は、決してセオリー通りにはいかない。事例をできるだけ多く採り入れて、対応の共通点を見出して理解することが基礎・基本である。それらをベースにして支援の方法、留意点を解説する。

授業計画

- 1 発達に課題がある子の「困り感」への気づき
- 2 保育士・教師としてできる個別配慮
- 3 介助者が加わったときの役割
- 4 室内トラブルへの対応その1解決のポイント
- 5 室内トラブルへの対応その2たち歩きやエスケープ
- 6 室内トラブルへの対応その3人間関係のトラブル
- 7 室内トラブルへの対応その4パニックを起こしたときの対処
- 8 保護者とともに子どもを育てるその1保護者面談の進め方
- 9 保護者とともに子どもを育てるその2親から学ぶ支援のあり方
- 10 周りの子どもやその保護者への対応その1周辺の子ども
- 11 周りの子どもやその保護者への対応その2保護者に対して
- 12 チーム支援その1確かな情報を共有する
- 13 チーム支援その2実態の把握方法
- 14 チーム支援その3組織的支援の進め方
- 15 学校・園に合ったチェックリストを作成

授業の方法

講義が中心となるがペアトーク、グループトークを採り入れて各自の考えが発信できるよう工夫する。

準備学修

マスコミ等でとり上げられる子どもに関する記事について、複数の視点で考える習慣を期待する。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

杉山 登志郎 『子どもの発達障害と情緒障害』（健康ライブラリーイラスト版）

参考図書

必要に応じて紹介する。

留意事項

ユニバーサルデザイン、インクルーシブシステム等特別支援教育に係るマスコミ報道に興味・関心を持つ。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目 < こども関連科目 >	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
福祉心理学			17543	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
新美 裕之	選択	2	認知症専門病院の心理判定士、児童養護施設・児童心理治療施設のセラピスト、臨床心理士・公認心理師			

授業の到達目標

- ・福祉心理学関連の法・制度・用語を理解できる。
- ・福祉現場において生じる問題及びその背景について理解できる。
- ・福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援について理解できる。
- ・虐待についての基本的知識を身につける。
- ・このクラスでは、KAISEIパーソナリティのS（奉仕）とE（倫理）を養う。

授業の概要

福祉心理学の分野は幅広く支援対象者もさまざまであり、必要となる支援内容も多岐にわたる。しかし人の安全・安心を保障し、安定した生活へと支援していくという点では共通している。このクラスでは福祉領域における心理臨床について、まずは福祉対象者への心理支援の必要性とあり方を総論的に学び、その後福祉心理学的心理支援の実践について実践内容を中心に学ぶ。その中で虐待をはじめとする福祉現場における心理社会的課題や必要な支援さらには福祉現場で生じる問題とその背景についても理解し、実践的知識を身につける。

授業計画

- 1 第1章 社会福祉の展開と心理支援
- 2 第2章 総論：生活を支える心理支援
- 3 第3章 暴力被害者への心理支援
- 4 第4章 高齢者への心理支援
- 5 第5章 障害・疾病のある人への心理支援
- 6 第6章 生活困窮・貧困者への心理支援
- 7 第7章 児童虐待への心理支援の実践
- 8 第8章 子どもと親への心理支援の実践
- 9 第9章 認知症高齢者の心理支援の実践
- 10 第10章 ひきこもり・自殺予防の心理支援の実践
- 11 第11章 精神障害者への心理支援の実践
- 12 第12章 家族・職員への心理支援の実践
- 13 第13章 福祉分野での多職種協働と心理職の位置づけ
- 14 第14章 多職種協働実践事例報告
- 15 福祉心理学のまとめ

授業の方法

授業は基本的に各章のテキストの内容に沿って講義形式で進める。福祉現場への理解を深めるため、適宜レジュメを配布し、実践的知識の習得を目指す。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

通常欠席は5回を超えると不合格とする。遅刻・早退は減点する。特例欠席において、補填を希望する場合には、必ずその旨を申し出ること。

テキスト

野島 彦・繁樹算男 監修 中島健 編 2018 公認心理師の基礎と実践⑩ 福祉心理学 遠見書房

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育方法論	教職幼小		17657	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	公立小教員、学校心理士SV、臨床心理士、 上級教育カウンセラー、教育委員会			

授業の到達目標

激変する社会に対応できる子どもたちの育成に必要な資質や能力を高めるために、教育技術について理解を深めるとともに情報機器や教材作りへの関心を高める。また、アクティブラーニングの意味を理解するとともに、参加体験・ディスカッションを通して使える技術を習得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）I（知性）の育成をめざす。

授業の概要

教育方法の概要、教育方法学の歴史、日本の授業と授業研究、教室の日常会話から学ぶこと、コンピューターと教育。などを軸として『学び』について深く考える。さらに、激変する社会に対応できる教育の方法や技術について学ぶとともにそれを生かした情報機器の活用能力を高める。今日の教育課題にも対応できるように、新学習指導要領からキーワードを解説する。

授業計画

- 1 教育方法と授業について基礎的な理論を理解する。
- 2 教育方法をより深く理解するために日本と諸外国とを比較して学ぶ。
- 3 授業と教育方法の基本原則の つとして系統学習と問題解決学習を理解する。
- 4 個々の考え、意見を授業で分かち合い高めあう授業の創造。
- 5 自分の考えと他者の意見を議論しながら、主体的・対話的な深い学びについて体験する。
- 6 系統的な学び、単元を貫いた授業づくりのための教材選定、教室環境を理解する。
- 7 育みたい資質・能力を育む教材研究と授業のありかたを理解する。
- 8 聞き手によくわかる話し方(話法)について基礎的な技術を身に付ける。
- 9 めあてを共有できるような板書の工夫を考える力を育てる。
- 10 学習指導案での子どもの実態を把握する技術を理解する。
- 11 学習指導案での教材の持っている価値を見抜く技術を理解する。
- 12 学習指導案での指導観の意義と書き方を理解する。
- 13 学習指導案での展開部について、時間配分や軽重を考えながら書けるようにする。

- 14 幼児の興味関心を高める情報機器、ソフトウェアを選定し活用することができる。
- 15 子どもたちの実態や効果的な時期にあった情報機器を活用しその能力を高めかつ、情報モラルも理解する。
講義後、試験を実施

授業の方法

講義、発表とワークショップ

準備学修

参考図書からレポートを指示することがある

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内の規定に準ずる

テキスト

必要な場合授業時に指示する。

参考図書

必要に応じて指示する

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等国語科指導法			17661	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
大岸 啓子	選択	2	公立小学校教員			

授業の到達目標

小学校「国語科」の教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

国語科の目標と内容、授業方法、授業の構造、指導計画等、小学校における国語科学習指導法を把握するための講義を行う。また、教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解したうえで、教科書教材の指導案の作成や模擬授業を通して、国語科の指導力を身に付ける。

授業計画

- 1 受講の心構え・授業規律・授業内容についてのガイダンス、国語と国語科
- 2 国語科教育の意義と役割
- 3 国語科の目標と内容
- 4 学習指導要領に基づいた学習指導計画
- 5 国語科の指導法と評価
- 6 話すこと・聞くことの指導
- 7 書くことの指導
- 8 説明的な文章の指導(情報機器及び教材の活用を含む)
- 9 文学的な文章の指導(情報機器及び教材の活用を含む)
- 10 音読・朗読の指導
- 11 伝統的な言語文化の指導(情報機器及び教材の活用を含む)
- 12 国語の特質に関する指導
- 13 模擬授業(低学年)
- 14 模擬授業(高学年)
- 15 これからの国語科教育の課題

授業の方法

発表やディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

テキストの指定ページを読んだり、指導案を作成したりしておくこと。詳細については、Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①指導案と模擬授業について、批評とアドバイスを行う。
- ②評価方法は平常点50%、定期試験50%とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

吉田武男 監修『初等国語科教育』ミネルヴァ書房
文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度(模擬授業の準備やレポート等を含む)を重視する。小学校国語科の指導法を身に付けようとする意欲をもって授業に臨むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別活動論	教職小		17681	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
都賀 純	選択	2	公立小学校勤務。特別活動の授業発表・研究発表あり。 神戸市で特別活動担当指導主事経験あり。			

授業の到達目標

特別活動の意義、役割、今日の課題について学ぶ。子供の自己実現、人間関係づくり、望ましい集団活動のあり方について専門的な知識や指導力を身につける。

kaiseiパーソナリティのI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

教育課程における特別活動の理念を把握し、目標と内容を理解する。学級活動の模擬体験や模擬授業を行う。さらに学校現場での実践、学級会活動等での映像を通して子供の姿を捉え、特別活動の理解を深めていく。

授業計画

- 1 オリエンテーション、改訂の趣旨と目標
- 2 基本的な性格と意義
- 3 学級活動の目標と内容
- 4 学級活動の指導計画
「学級や学校における生活づくりへの参画」の模擬授業
- 5 学級活動の指導計画
「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の模擬授業
- 6 学級活動の内容の取扱い
「人 人のキャリア形成と自己実現」の模擬授業
- 7 児童会活動の目標と内容
- 8 児童会活動の指導計画と内容の取扱い
- 9 クラブ活動の目標と内容、指導計画と内容の取扱い
- 10 学校行事の目標と内容
- 11 学校行事の指導計画と内容の取扱い
- 12 指導計画の作成に当たっての配慮事項 特別活動における主体的・対話的で深い学び
- 13 指導計画の作成に当たっての配慮事項 全体計画・年間計画の作成とその留意点
- 14 内容の取扱いについての配慮事項
- 15 まとめと、定期試験

授業の方法

講義と演習（模擬授業、ディスカッション、プレゼンテーション

等）を合わせて、創造的思考力を養う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題：与えられたテーマについて自分の考え、感想を含めたプレゼン発表を行う。また模擬授業を行い批評会を行う。

評価方法：平常点50％ 定期試験50％

欠席について

欠席は1回につき4点減点。

テキスト

小学校学習指導要領解説（平成29年告示）「特別活動」 文部科学省

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度を重視する。積極性と意欲を持って、授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別支援教育（幼小）			17683	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	公立小教員、学校心理士SV、臨床心理士、 上級教育カウンセラー、教育委員会			

授業の到達目標

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒の実態を理解したうえで、個別の指導計画及び教育支援計画の立案方法を理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒への理解を深め、より良い教育課程や支援を理解する。発達に課題があるなど障害種にかかわらず、幼児・児童・生徒が「生きる力」を身に付けることができるよう、個別の教育的ニーズを理解し、教員として、また、学校がチームとして求められる支援の方法を考察する。

授業計画

- 1 特別支援教育（インクルーシブ教育含む）の理念や制度
- 2 発達障害を含む特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の困り感
- 3 発達障害を含む特別な支援が必要な幼児・児童・生徒の心の発達
- 4 障害のある幼児・児童・生徒の困り感
- 5 障害のある幼児・児童・生徒の家族、特に母親の気持ちに寄り添う支援技術
- 6 障害のある幼児・児童・生徒の保護者・兄弟姉妹・祖父母等の障害受容
- 7 合理的配慮の必要性和生活上の困難に対し主体的に取り組む自立活動
- 8 障害のある幼児・児童・生徒の教材選定
- 9 通常学級でのスモールステップ支援と通級指導による指導の時間
- 10 構音障害等通級教室の活用によるチーム支援
- 11 様々な障害種、重複障害と個別の教育支援
- 12 特別支援教育コーディネーター等との連携
- 13 障害種に応じた様々な関係機関等との連携
- 14 障害のある幼児・児童・生徒以外の個別的教育支援
- 15 外国から移住してきた幼児・児童・生徒の学習、生活面での支援
- 16 定期試験

授業の方法

講義、発表とワークショップ

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

定期試験80％、授業最後に提出するレポートと振り返り20％

欠席について

学内の規定に準ずる

テキスト

必要に応じて指示する

参考図書

子どもの発達障害と情緒障害（杉山登志郎、講談社）。

留意事項

必要な場合授業時に指示する。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習指導（幼稚園）Ⅱ			17707	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	選択	1	公立幼稚園教員			

授業の到達目標

1 週間実習の成果と課題を生かして、さらに充実した3週間実習となるよう、教育実習の目的意識と実践力を確かなものにする。実習終了後は評価反省を行い、幼稚園教諭となるにふさわしい自分をめざす。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）の育成をめざす。

授業の概要

1 週間実習の成果と課題を自ら明確にし、3週間実習に意欲的に取り組めるようにする。実習で直面するであろう課題や問題点について、実践例をもとに教材研究などを具体的に学ぶ。実習終了後は自らの課題を明確にし、その課題克服に努める。

授業計画

- 1 実習園でのオリエンテーション（依頼電話のかけ方、訪問に際して等）
- 2 指導実習に向けての教材の作成①
- 3 "②
- 4 "③
- 5 絵本の読み聞かせとリズム遊び①
- 6 "②
- 7 実習園のオリエンテーションを受ける。
- 8 実習園の教育理念や指導方法を学ぶ。
- 9 指導実習に向けての教材研究と指導案の作成①
- 10 "②
- 11 実習記録の記入方法について
- 12 実習に向けて留意事項の再確認
- 13 礼状の作成
- 14 実習園の評価をもとに反省と考察を行い、課題を明確にする。
- 15 まとめ

授業の方法

実習園の教育方針について理解すると共に、教材研究や指導案の作成、実習記録の取り方など、実際に即した内容で授業を進める。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

- ①提出を求めるシート等について、授業内で評価と助言を行う。
- ②平常点70%、定期試験30%

欠席について

必ず全回出席である。やむをえず欠席する場合は必ず事前に申し出ること。その場合のみ、1回につき3点減点する。

テキスト

「幼稚園教育実習の手引き」本学作成 「幼稚園教育要領解説」フレール館 「あそびうた大全集200」永岡書店 「実践！造形あそび」ナツメ社

参考図書

「教員をめざそう！」文部科学省

留意事項

免許取得のための教育実習に向けての授業であることを十分心得ておくこと。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育経営論	教職幼小PC		17713	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	学校心理士SV、臨床心理士、公立小教員			

授業の到達目標

教育制度について、法的な知識をふまえながら、その概要を把握し、経営という観点から、学校を総合的・多面的に理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

現在の教育システムの在り方をとらえ、学校・学級経営の様々な場面に応じて、組織を有効に活用する教育経営論を学ぶ。教育について、制度及び経営という側面から考察していく。また、学校制度や教育関係法規から、学校教育の目的や教職員の職務等を学び、教師の職責について理解を深める。

授業計画

- 1 受講の心構え・授業規律・授業内容等についてのガイダンス、学校の種類と公教育
- 2 教育制度の歴史と発展 1
- 3 教育制度の歴史と発展 2
- 4 子どもの権利と人権 1
- 5 子どもの権利と人権 2
- 6 教育制度を学ぶ意義 1
- 7 教育制度を学ぶ意義 2
- 8 教育法 1
- 9 教育法 2
- 10 教育の目的と目標
- 11 学校の制度
- 12 義務教育の制度
- 13 教育の機会均等
- 14 教職員の制度
- 15 まとめ

授業の方法

考えを書く活動とグループディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

世界各国の教育制度や教育の現状、教育法等について事前に調べた

り、レポートを作成したりすること。授業時間の2倍程度の時間を準備学修（予習・復習）に費やすこと。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

出席については、大学が認める欠席以外考慮しない

テキスト

必要な場合授業時に指示する。

参考図書

川口洋誉・中山弘之『未来を創る 教育制度論』北樹出版

留意事項

出席と授業態度を重視する。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
関係行政論			17859	IV	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	学校心理士SV 臨床心理士 上級教育カウンセラー、小学校長、教育委員会			

授業の到達目標

心理・社会福祉に関する支援を求められる分野を理解する。さらに、代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、発達を踏まえた主体的な臨床活動を支える基本的な考え方を理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

公認心理師に求められる法律・制度は、社会のニーズに応じて刻々と変わっている。柔軟な姿勢で臨めるよう指導する。クライアントが課題を乗り越える支援として法律の基本をきちんと押さえる。

授業計画

- 1 公認心理師に關係する法規紹介と全体像を理解する。
- 2 教育分野では、教育基本法を頂点とする各法律の中で、公認心理師が担うべき内容を理解する。
- 3 学校教育と教育委員会な關係、チームワークについて理解する。
- 4 学習指導要領の特に総則について理解を深め、学校教育への支援の在り方を学ぶ。
- 5 保健医療分野では、医療制度の概略を理解する。
- 6 公認心理師が主にかかわるであろう精神保健福祉法、医療観察法の内容を理解する。
- 7 高齢化社会に向けて、益々介護保険法の知識が必要となると思われるので、事例を入れながら理解を深める。
- 8 児童虐待が激増している社会状況を踏まえ、児童福祉法の概略を理解する。
- 9 インクルーシブシステムが様々な現場で認知され始めたことを受け、障害児(者)の福祉関連法規を理解する。
- 10 増々の高齢化社会に向け、高齢者福祉領域のニーズは格段に増えつつある。心理職の関わり方を理解する。
- 11 若者の犯罪が急増している現代、少年法、犯罪被害者支援法等について理解する。
- 12 家族崩壊や夫婦離婚、それらに関連する子どもの養育問題等、司法、犯罪分野の知識理解を深める。
- 13 産業・労働分野、特に労働者のメンタルヘルスは重要である。そこ

で、これらの関連法規を理解する。

- 14 男女共同参画、で女性も企業にとって活躍している現代において、多忙な家庭生活が予想される。産業・労働分野における心の健康について深く考える。
- 15 労働者を守る「労働三法」についてきちんと知識を蓄えて、支援できるよう理解を深める。講義後に全体を振り返り、試験を課す。

授業の方法

法規の文言は難解な語句が多いので、事例を加えながら解説していく。

準備学修

社会の出来事に日ごろから関心を持つこと

課題・評価方法、その他

レポート、発表、定期試験

欠席について

学内基準に準拠

テキスト

授業中に指示する

参考図書

授業で指示する

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

掲示板を参照すること

ET 教職科目 <ET 教職科目>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別活動論	教職中等		14185	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
澤井 一夫	選択	2	県教育委員会勤務			

授業の到達目標

特別活動は、「様々な集団の中で体験を通して人としての生き方を学ぶ」場である。教育課程における位置づけと意義を理解し「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点、他教科との往還的な関連、地域との連携など特別活動の特質を踏まえ教師として指導に必要な基礎的知識を身につける。

このクラスではKAISEIのI（知性）を養う。

授業の概要

特別活動の意義から学校の具体的な実践までを、歴史的な経緯を踏まえながら学習する。

- 1 特別活動の歴史的な経緯を踏まえ意義や目標を理解する。
- 2 特別活動の4つの内容である「学級活動（ホームルーム）」「生徒会活動（児童会活動）」「クラブ活動（部活動）」「学校行事」について理解する。
- 3 特別活動の内容について、実践例などを参考にしながら、具体的に各指導計画をたて指導の在り方について考察する。

授業計画

- 1 講義の進め方と概要を説明(オリエンテーション)
- 2 教育課程における特別活動の位置づけ
- 3 特別活動の歴史の変遷
- 4 ① 各校種における特別活動の内容と目標
② 特別活動の内容1「学級活動」について
- 5 特別活動の内容2「生徒会(児童会)活動」について
- 6 特別活動の内容3「学校行事」について
- 7 学校目標と特別活動の指導計画について
- 8 演習1 学級活動の指導計画を作成する。その1
- 9 演習2 学校行事の特別活動の指導計画を作成する。
- 10 演習3 事前に作成した計画に基づき施設を利用して校外学習を行う。
- 11 演習4 校外学習を終えて
- 12 演習5 学級活動の指導計画を作成する。その2
- 13 クラブ活動と部活動との違い、部活動の教育的意義と課題について
- 14 特別活動と社会とのかかわり
- 15 まとめとテスト

授業の方法

講義を中心に討議や発表を設ける。

準備学修

- 各授業に関連する内容について「中学校・高等学校学習指導要領 解説 特別活動編」を熟読し予習する。
- 自分の小学校から高校までの特別活動について整理をする。
- 特別活動の実践例など日頃から新聞等を見て整理する。
- Webで参照すること

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に準じる。

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説『特別活動編』」東山書店
必要に応じて資料を配付する。

参考図書

- ・他の校種の学習指導要領、特に「特別活動」
- ・学級・学校文化を創る特別活動【中学校編】 東京書籍 国立教育研究所 教育課程研究センター
- ・「社会力を育てる」岩波新書 門脇厚司著
- ・「学校の社会力」朝日新聞 門脇厚司著など

留意事項

教職を目指す学生として、講義内容をただ受容するだけでなく、現在の社会に目を向け、主体的に考え課題意識をもって捉える姿勢でのぞむこと。

ET 教職科目 <ET 教職科目>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別支援教育（中高）			14187	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	公立小教員、学校心理士SV、臨床心理士、 上級教育カウンセラー、教育委員会			

授業の到達目標

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒の実態を理解したうえで、個別の指導計画及び教育支援計画の立案方法を理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒への理解を深め、より良い教育課程や支援を理解する。発達に課題があるなど障害種にかかわらず、幼児・児童・生徒が「生きる力」を身に付けることができるよう、個別の教育的ニーズを理解し、教員として、また、学校がチームとして求められる支援の方法を考察する。

授業計画

- 1 特別支援教育(インクルーシブ教育含む)の理念や制度
- 2 発達障害を含む特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の困り感
- 3 発達障害を含む特別な支援が必要な幼児・児童・生徒の心の発達
- 4 障害のある幼児・児童・生徒の困り感
- 5 障害のある幼児・児童・生徒の家族、特に母親の気持ちに寄り添う支援技術
- 6 障害のある幼児・児童・生徒の保護者・兄弟姉妹・祖父母等の障害受容
- 7 合理的配慮の必要性と生活上の困難に対し主体的に取り組む自立活動
- 8 障害のある幼児・児童・生徒の教材選定
- 9 通常学級でのスモールステップ支援と通級指導による指導の時間
- 10 構音障害等通級教室の活用によるチーム支援
- 11 様々な障害種、重複障害と個別的教育支援
- 12 特別支援教育コーディネーター等との連携
- 13 障害種に応じた様々な関係機関等との連携
- 14 障害のある幼児・児童・生徒以外の個別的教育支援
- 15 外国から移住してきた幼児・児童・生徒の学習、生活面での支援
- 16 定期試験

授業の方法

講義、発表とワークショップ

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

定期試験80%、授業最後に提出するレポートと振り返り20%

欠席について

学内の規定に準ずる

テキスト

必要に応じて指示する

参考図書

子どもの発達障害と情緒障害（杉山登志郎、講談社）

留意事項

必要な場合授業時に指示する

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと